

【FinCity.Tokyo】 独立開業道場

2023年11月

KUSABI 代表パートナー 渡邊佑規

自己紹介 | 渡邊佑規

1981年生まれ / 静岡県出身

2004年に三井住友銀行に入行、上場企業を含む中堅企業への融資及び金融商品販売業務に従事。行内公募制度を活用し、2008年からVCキャリアをスタート。その後、SMBC日興証券の投資銀行部を経て、2015年にグロービス・キャピタル・パートナーズへ入社。シニアキャピタリストの一角を担い、2019年からはディレクターとして Firm 運営にも尽力。2021年から独立、KUSABI の代表パートナーを務める。

最終学歴：一橋大学大学院修了

〈投資スタイル〉

- Lead投資、Hands-onで投資先に積極関与
- Multi Stage 対応
(現在はファンドの性質上、Seed / Early中心)
- 情報通信・ITサービスセクターを中心に投資

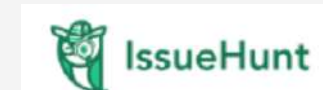
SMBC
時代



GCP
時代



KUSABI





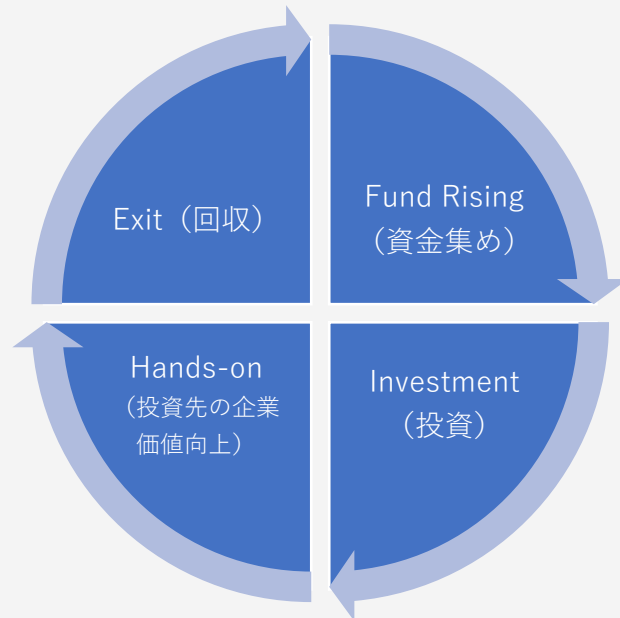


sansan

VC にとっての最大の失敗はホームランディールの投資機会を逃すこと
(投資ロスを出すことではない！)



1. LP投資家 (Limited Partners) から資金を集め、ファンドを組成する
2. 有望な複数のStartupに投資する
3. 投資先に積極的に関与し、企業価値を上げる
4. 期限内に、IPOあるいはM&Aで株式を売却、資金をLPに分配する



VCのレベニューソース

① **マネジメントフィー**：ファンドの運営・管理に対する報酬で、人件費や各種費用に充てるもの。一般的にファンドの規模に応じて定期的に徴収（例えば、100億円のファンドであれば毎年2億円ずつ）。

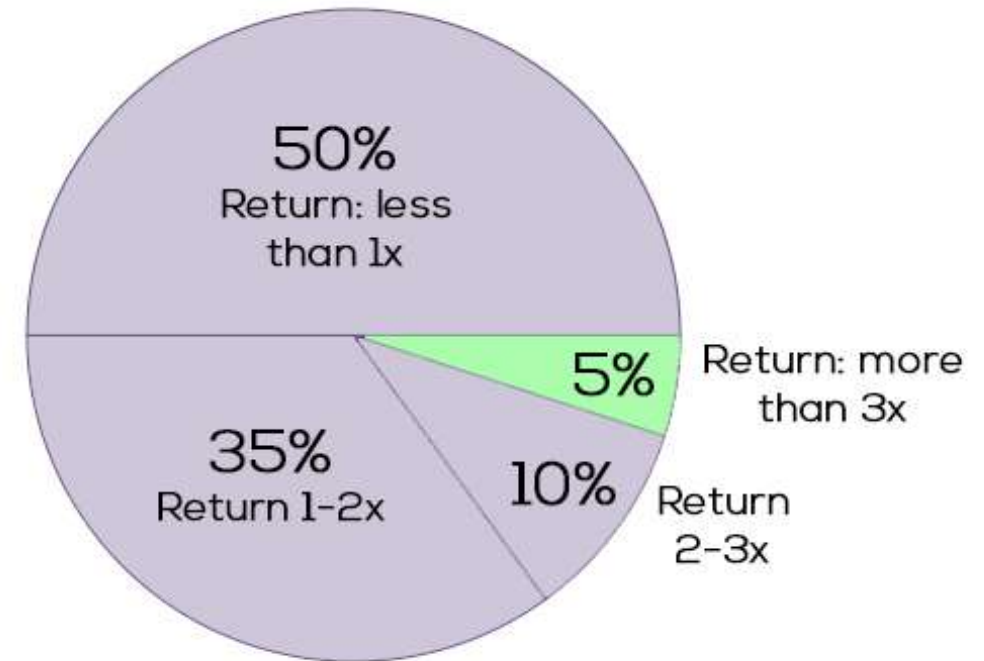
② **キャリード・インタレスト**：ファンドが一定のリターンを上げることに成功した場合、利益の一定割合を優先的に受け取る報酬（正確には配当）。

LP投資家が、VC ファンドに合格点を出す
Thresholdは「3倍以上のリターン」

一方、合格点に達するのは5%のファンド
に過ぎないという統計データもあり

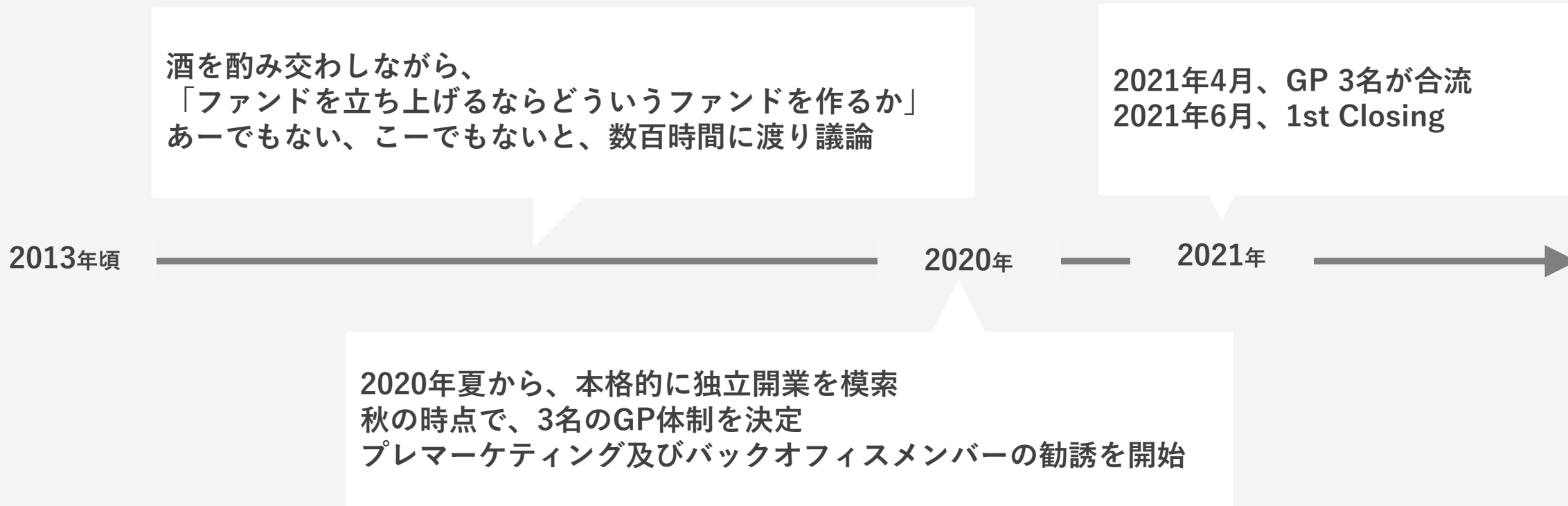
特に海外では、日々数多のファンドが立ち
上がると同時に、数多のファンドが退場を
余儀なくされている

VC Fund Return on Investment



出所：<https://techcrunch.com/2017/06/01/the-meeting-that-showed-me-the-truth-about-vcs/>

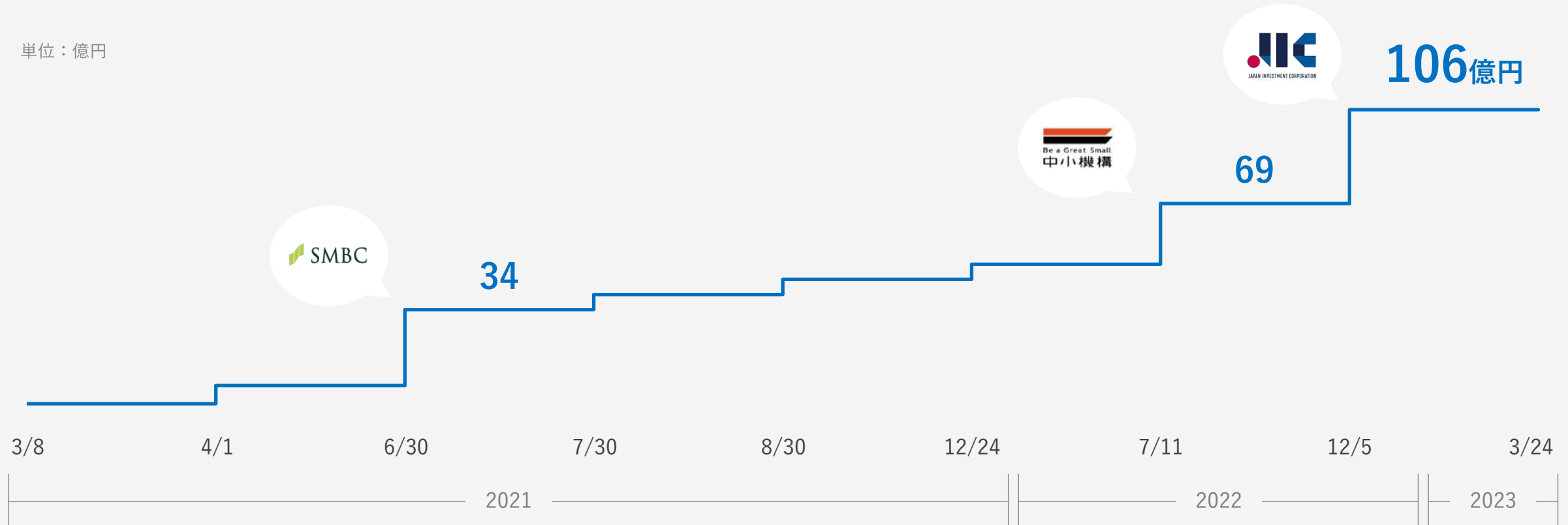
○ これまでの歩み



長い時間をかけて信頼関係を構築、主義・主張を擦り合わせ

2020年年末からプレマーケティング、
2021年6月に1st Closing、2022年7月に2nd Closing、
2023年3月に106億円でFinal Closingを達成

単位：億円



1号ファンドは7名のプロフェッショナルで運営

- メンバー5人中、4人がリファーマル採用
- マネジメントカンパニーの財務健全性維持のため、業務委託（副業）を積極活用

次号ファンドに向けた採用活動を始動

	ベンチャー キャピタリスト	ミドルオフィス	バック オフィス	計
役職員	3	1	1	5
業務委託	1	1	1	3
計	4	2	2	8

2023年6月末時点

- 独立開業（1号ファンドレイジング）時に唯一示せる定量的証拠であるこれまでの**トラックレコー**を**事前に整備**しておくこと
- トラックレコードに並び大切なのが「**credibility**」。一朝一夕に作り上げられるものではなく、**時間と手間をかけて関係性を構築**しておくことをお勧め
- 投資パイプラインはDay 1から求められる、**ファンドレイジングと投資は両輪**
- ファンドレイジングのKSFは「**1st アンカーLPをどう捕まえるか**」に尽きる
- 特に**1号ファンドにおける売り物は「GP個人**」と言っても過言ではない
自らLP投資家に売り込む覚悟で臨む（営業から逃げない）
- どんなに実績があっても独立開業（1号ファンドレイジング）は難儀。振られまくることを前提に強い心を持って、とにかく打席数を確保すること（打率を追わない）

- GPがフロント活動に集中できるバックオフィス体制をDay 1から整えておくことが肝要
- 一方、ファンドリーガルの肝の部分はGPが隅々まで理解する必要あり
例えば、弁護士に丸投げすることなかれ
- ファンドストラクチャ、意思決定構造、インセンティブ設計、採用・育成戦略、、、
いずれも個別事象にあらず（筋が通っていないと、その綻びをおおいに突かれる）